

研究に関するお知らせ

研究の名称：巨大食道裂孔ヘルニアに対する治療成績の検証

■研究目的・方法・対象

食道裂孔ヘルニアは、食道裂孔から腹腔内臓器の一部が縦隔側へ脱出した状態で、軽度のものも含めれば上部消化管被験者の約半数に認められる所見です。そのうち1%未満の症例では、胃の大部分が縦隔内に嵌入し巨大食道裂孔ヘルニアと呼ばれる状態を呈します。一般的に有症状例では手術介入(食道裂孔縫縮+噴門形成)が必要とされるものの、本邦では手術実施数が少なく十分な理解が得られておりません。また、手術実施により心肺機能の改善、経口摂取量の改善などが得られることは少数例で報告されていますが、健康寿命の延長など予後改善効果について十分な知見はありません。

■研究期間

承認日～2024年12月31日まで

■研究対象・研究に用いる情報の種類

対象としては、2010年1月1日から2024年3月31日までの間に京都医療センター外科で、巨大食道裂孔ヘルニアと診断され治療介入された症例を対象とします。対象症例の症状やQOL、身体的特徴(ADL、体重、円背、骨格筋量)、栄養状態、生理学的特徴(心機能、呼吸機能)、画像診断的特徴(ヘルニア内容の形態や円背の程度、骨量)、治療法、治療成績(治療介入による上記所見の変化、肺炎などの続発症の有無、予後、ヘルニア再発)を、電子カルテより抽出し解析致します。

■個人情報の開示に係る手続きについて

本研究では、患者を匿名化してデータを収集致します。使用に際しては、政府が定めた倫理指針に則って個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。みなさまに新たにご負担頂くことはございません。当研究への協力を希望されない場合は、研究担当者までお問い合わせ下さい。

■研究責任者：

京都医療センター外科 中西 保貴

■お問い合わせ先

京都医療センター外科

〒612-8555 京都市伏見区深草向畑町1-1

電話：075-641-9161

■掲示場所・交付場所

京都医療センター外科ホームページへ掲載